

像也。父者印東氏，呼治部左衛門尉名有國。平家千葉之族，鄉人推重焉。建長六年甲寅，有國遊鎌倉，松葉谷拜謁我高祖大菩薩。夙因所逐一見如舊，終結道契。又幸昭尊者，在

第七百遠忌報恩

日朗菩薩

此有國携兒投之。兒甫十歲，進退揖讓，佗如巨人。高祖見而器許，且疇昔夢雷霆劈歷，頓塵室內，須臾雲霽，碧空清朗，醒而異之。兒到就座，雷墮之處，高祖告曰：斯兒不凡。他日振大法雷，灑大法雨，除却眾生障雲，第一義天朗朗，大哉！夢吉也。遂名呼日朗。夜以繼日讀書之暇，須臾不離高祖之膝，蚤起侍于香燭後，卧枕于牀下，一動一止，假不

序文

当池上本門寺並に比企谷妙本寺第二祖大國阿闍梨日朗菩薩の第七百遠忌をおむかえするにあたり、そのご生涯をふり返りあらためてそのご遺徳に感謝の念をささげ、併せて朗尊ご化導の足跡から現下の道すじのご参考にして頂きたく本書を発行することにいたしました。

日朗菩薩、朗尊について語られ、伝えられていることの第一は至孝の徳であり、給仕の徳であります。宗祖大聖人に全身全霊をもってお仕えなされたそのお姿は私共門下のお手本であり歩むべき指針であります。ですが朗尊のご生涯はこれのことだけではありません。宗祖なきあとの門下を守られ、沢山のお弟子を育成されたということでもあります。忘れてはならないのはそのお弟子、門下の多かつたこと、朗門の九鳳聖人をはじめとして、日蓮宗五千余ヶ寺の半数近く他門流多数のご寺院がその法縁に連っていると申し上げてよろしいかと存じます。あらためて朗尊のご化導の大きさを感じます。

「師を語る時、その弟子を知れ」とは先師の教えであります。日蓮聖人ご教化の大きさを知るには朗尊のお姿を拝するのが第一であること申すまでもありません。

そして朗尊のご教化を知るには今般ご紹介資料を通じてその足跡をご覧いただき、お弟子各聖人のご教化をご理解くださり、あらためて日朗菩薩、朗尊ご化導の後姿に思いをはせて頂ければと存じます。

現下宗門では子弟教育、将来の宗門を担う人材の育成に力をそそいでおりますが、朗尊の教育法。後姿で導かれたご化導こそ今心すべき事と受け止めております。

結びに本書を発行するに当り関係ご寺院各聖より多大のご高配をたまわりましたことに深甚の謝意を表し、併せて編集担当者を慰労申し上げ、発行の序文といたします。

合掌

平成三十一年一月二十一日

池上本門寺第八十三世

菅野 日彰

序文……………池上本門寺第八十三世 菅野日彰

目次／例言／謝辞

第一章 日朗聖人の肖像……………1

- 1 日朗聖人像 鎌倉時代・十四世紀 京都本満寺蔵
- 2 日朗聖人像 南北朝時代・十四世紀 池上本門寺蔵

第二章 日朗聖人に関連する日蓮大聖人御筆曼荼羅本尊……………7

- 3 日蓮大聖人御筆 曼荼羅本尊 (文永十一年・一二七四) 平賀本土寺蔵
- 4 日蓮大聖人御筆 曼荼羅本尊 建治二年(一二七六) 卯月 京都本圀寺蔵
- 5 日蓮大聖人御筆 曼荼羅本尊 弘安三年(一二八〇) 三月 比企谷妙本寺蔵
- 6 日蓮大聖人御筆 曼荼羅本尊 無年紀 平賀本土寺蔵

第三章 日朗聖人に関連する日蓮大聖人御遺文……………11

- 7 日蓮大聖人御筆「五人土籠御書」 (文永八年・一二七二) 京都妙覚寺蔵
- 8 日蓮大聖人御遺文「土籠御書」 (文永八年・一二七二) 『定本』
- 9 日蓮大聖人御遺文「波木井三郎殿御返事」 (文永十年・一二七三) 『定本』
- 10 日蓮大聖人御筆「辨殿御消息」 (建治二年・一二七六) 京都本能寺蔵
- 11 日蓮大聖人御筆「中務左衛門尉殿御返事」 (弘安元年・一二七八) 京都立本寺蔵
- 12 日蓮大聖人御筆「兩人御中御書」 (弘安三年・一二八〇) 京都妙頭寺蔵

第四章 日朗聖人の曼荼羅本尊……………

- | | | | |
|----|---------------------------|------------------|---------|
| 13 | 銅製日蓮大聖人御真骨容器
(刻銘日朗聖人筆) | (弘安五年・二二八) | 池上本門寺藏 |
| 14 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 弘安十年(二二八七) 五月十三日 | 比企谷妙本寺藏 |
| 15 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正応四年(二二九一) 九月三日 | 比企谷妙本寺藏 |
| 16 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 永仁二年(二二九四) 四月十日 | 京都妙覚寺藏 |
| 17 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 嘉元三年(二三〇五) 二月四日 | 比企谷妙本寺藏 |
| 18 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 徳治二年(二三〇七) 正月八日 | 池上本門寺藏 |
| 19 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 徳治三年(二三〇八) 七月十日 | 京都本隆寺藏 |
| 20 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 徳治三年(二三〇八) 七月十五日 | 京都立本寺藏 |
| 21 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和二年(二三一一) 正月十五日 | 比企谷妙本寺藏 |
| 22 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和二年(二三一一) 六月 | 京都本満寺藏 |
| 23 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和二年(二三一一) 八月八日 | 小浜長源寺藏 |
| 24 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和三年(二三一二) 三月五日 | 比企谷妙本寺藏 |
| 25 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和三年(二三一二) 八月二十日 | 京都妙覚寺藏 |
| 26 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和三年(二三一四) 八月 | 比企谷妙本寺藏 |
| 27 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和四年(二三一五) 正月十五日 | 京都妙頭寺藏 |
| 28 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和四年(二三一五) 六月一日 | 比企谷妙本寺藏 |
| 29 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和四年(二三一五) 十月十日 | 比企谷妙本寺藏 |
| 30 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和五年(二三一六) 六月十三日 | 池上本門寺藏 |
| 31 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和五年(二三一六) 八月十五日 | 京都妙覚寺藏 |
| 32 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 正和六年(二三一七) 二月八日 | 鎌倉長勝寺藏 |
| 33 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | 文保二年(二三一八) 七月三日 | 京都妙頭寺藏 |
| 34 | 日朗聖人筆 曼荼羅本尊 | (無年紀) | 京都慧光寺藏 |
| | 参考 版本伝 日朗聖人曼荼羅本尊 | 正和元年(二三一二) 九月二日 | 町田宏善寺藏 |
| | 参考 伝 日朗聖人曼荼羅本尊 | 文保元年(二三一七) 二月五日 | 池上本門寺藏 |

- 35 日朗聖人書状「伯耆公御房消息」 弘安五年（二二八二）二月二十五日 富士大石寺蔵
- 36 日朗聖人書状 三月十五日 池上本門寺蔵
- 37 日朗聖人書状 （徳治二年・一三〇七）七月十七日 京都妙頭寺蔵
- 38 日朗聖人書状 （延慶三年・一三二〇） 京都妙頭寺蔵
- 39 日朗聖人書状 （応長元年・一三二一カ）三月三日 京都妙頭寺蔵
- 40 日朗聖人讓状 応長二年（一三二二）三月廿日 比企谷妙本寺蔵
- 41 日朗聖人書状 （正和三年・一三二四頃）十月九日 京都妙頭寺蔵
- 42 日朗聖人書状 （正和四年・一三二五）三月十四日 京都妙頭寺蔵
- 43 日朗聖人書状 （正和四年・一三二五）十二月二日 京都妙頭寺蔵
- 44 日朗聖人書状 （正和五年・一三二六）十月十五日 京都妙頭寺蔵
- 参考 某・某請取状案 正和五年（一三二六）十月六日 京都妙頭寺蔵
- 45 日朗聖人書状 （正和四年・一三二五以降）八月廿一日 京都妙頭寺蔵
- 46 日朗聖人書状 （正和四年・一三二五以降）十月廿三日 京都妙頭寺蔵
- 47 日朗聖人書状 （正和四年・一三二五カ）六月十六日 京都妙頭寺蔵
- 48 日朗聖人書状 （正和五年・一三二六以降） 京都妙頭寺蔵
- 49 日朗聖人書状 （文保元年・一三二七カ）正月十九日 京都妙頭寺蔵
- 50 日朗聖人書状追而書 （無日付） 京都妙頭寺蔵
- 51 日朗聖人書状 （文保二年・一三二八カ）五月七日 京都妙頭寺蔵
- 52 日朗聖人書状 十一日 京都本圀寺蔵
- 53 日朗聖人申状 弘安八年（二二八五） 『宗学全書』第一卷上聖部

- 54 日興上人筆「御遺物配分帳」 弘安五年（二二八二）十月 池上本門寺蔵
- 55 日興上人筆「宗祖御遷化記録」 弘安五年（二二八二）十月十六日 西山本門寺蔵
- 56 日興上人筆「身延山守番帳」 弘安六年（二二八三）正月 池上本門寺蔵

- 57 日位上人筆「大聖人御葬送日記」 (無年紀) 『宗学全書』一巻上聖部
- 58 「日朗聖人遺骨分与状」 元応二年(一三三〇)三月二日 京都妙頭寺蔵
- 59 「日朗聖人遺弟誓誠状」 元応二年(一三三〇)三月二日 京都妙頭寺蔵
- 60 日輪上人書状 (元亨元年・一三二二)二月廿六日 京都妙頭寺蔵
- 61 日輪上人書状 (觀応三年・一三五二)二月十三日 京都妙頭寺蔵
- 62 日輪上人書状 (延文四年・一三五九)二月九日 京都妙頭寺蔵

第七章 日朗聖人の教学書

- 63 日朗聖人筆『一代五時図』 文保三年(一三一九)三月七日 京都妙頭寺蔵
- 64 日朗聖人筆『像法決疑經等要文』 鎌倉時代・十三世紀 京都本満寺蔵
- 65 日朗聖人筆「五時之事」 鎌倉時代・十四世紀 京都立本寺蔵
- 66 日朗聖人筆「本迹見聞」 『宗学全書』一巻上聖部

第八章 日朗聖人の伝記史料

- 67 日晴上人「当門徒繼図次第」(抄録) 近代写本・池上本門寺蔵
- 68 日住上人「与中山浄光院書」(日現上人写本) 池上本門寺蔵
- 69 日親上人『伝燈抄』(抄録) 『宗学全書』十八巻史伝旧記一
- 70 『妙蓮寺祖師記』 慶長十一年(一六〇六) 『宗学全書』二十三巻史伝旧記部六
- 71 日樹上人「本門寺常住過去帳裏書」 元和八年(一六二二)六月十日 浦和蓮昌寺蔵
- 72 日潮上人「平賀本土寺開山日朗尊者世家」 池上中道院蔵

第九章 「日蓮聖人註画讃」(兜木本)の中の日朗聖人

- 73 「伊東左遷第七」(巻一第七段)
- 74 「龍口頸座第十六」(巻三第三段)
- 75 「籠中遣状第十八」(巻四第二段)
- 76 「赦免状第二十五」(巻四第九段)
- 77 「示寂第三十」(巻五第五段)

- 78 「收取遺骨第三十二」(卷五第六段)
79 「御書目録第三十二」(卷五第七段)

第十章 日朗聖人関連の石造物……………105

- 80 日朗聖人墓塔 室町時代・十五世紀 池上本門寺所在
81 日朗聖人供養塔 享保八年(一七三三)二月二十一日 池上本門寺所在
82 日蓮大聖人并日朗聖人遠忌報恩塔 明和五年(一七六八)三月二十一日 池上本門寺所在
83 日朗聖人五百遠忌報恩塔 文政元年(一八一八)八月二十一日 池上本門寺所在
84 日朗聖人六百遠忌報恩塔 大正八年(一九一九)四月二十一日 池上本門寺所在
参考 長興長栄両山奥之院 日朗聖人御廟所と関連石造物
85 日朗聖人墓塔 延宝元年(一六七三)一七〇四 猿島法性寺所在
題目五輪塔 南北朝時代・十四世紀中頃 猿島法性寺所在
87 日朗聖人五百遠忌報恩塔 文政二年(一八一九)正月二十一日 猿島法性寺所在
88 両山奥院題目塔 天保十二年(一八四一)十月 猿島法性寺所在
89 日朗聖人生誕地供養塔 享保八年(一七二三)九月二十一日 野手朗生寺所在
参考 供養塔関連日朗聖人書状 (享保八年・一七三三) 野手朗生寺藏
90 題目板碑 正応三年(一二九〇)三月廿八日 大坊本行寺藏
91 題目板碑 徳治三年(一三〇八)三月十七日 立正大学博物館藏
92 題目板碑群 大永八年(一五二八)一五九五 東秩父村大靈神社所在
93 日朗聖人供養塔 応永二十七年(一四二〇)二月二十一日 京都妙覚寺所在
参考 池上本門寺 日朗聖人ゆかりの地

第十一章 日朗聖人の御首題と花押……………137

解説 日朗聖人の御生涯……………143

報告 日朗聖人第七百遠忌報恩事業 池上本門寺総門修理工事……………186

日朗聖人門流略系譜
 日朗聖人関連略年譜
 参考文献
 靈宝殿特別展展示目録

図版出典

- 3・4・6／山中喜八編『御本尊集』立正安国会 昭和27年4月
- 4花押部分・5花押部分／中尾堯・寺尾英智編『図説 日蓮聖人と法華の至宝 第一巻曼荼羅本尊』同朋舎メディアプラン 平成24年6月
- 7・32・52／寺尾英智提供
- 10／『法華宗大本山本能寺』法華宗大本山本能寺 平成14年4月
- 12・16・25／頂岳龍乘編『妙覚寺寺宝集成』本山妙覚寺 平成15年5月
- 19・23・34／故新倉日立調査写真(池上本門寺蔵)
- 35／堀日亨編『六百五十御遠忌記念 日蓮大聖人御真筆御写真帖』日蓮正宗総本山大石寺大学寮 昭和6年10月
- 55／本間俊文提供
- 55花押部分／中尾堯・寺尾英智編『図説 日蓮聖人と法華の至宝 第二巻真蹟遺文』同朋舎メディアプラン 平成24年12月

- 一. 本書は池上本門寺における第二祖日朗菩薩第七百遠忌の報恩記念誌である。
- 一. 本書の表題は「日朗菩薩」であるが、本文においては歴史的叙述に鑑み、その尊称を「日朗聖人」とした。なお、宗祖日蓮大聖人は「大聖人」、他の先師についてはすべて「上人」の号を用いた。
- 一. 本書の編集は池上本門寺靈宝殿が行い、左記のとおり分担した。
 - 安藤昌就(靈宝殿主事) 全体構成、執筆(第十章以外)、史料翻刻、資料・年譜作成
 - 本間岳人(靈宝殿学芸員) 執筆(第十章)、写真撮影、拓本・図面製作、デザイン・DTP
- 一. 各章扉に配した日朗聖人の線画は本満寺蔵日朗聖人像をもとに作成した。
- 一. 本書使用写真の一部は寺尾英智、本間俊文各氏より提供を得た。
- 一. 池上本門寺では日朗菩薩第七百遠忌報恩事業として、総門(大田区指定有形文化財)の保存修理工事を行い、その概要を本書に掲載した。
- 一. 池上本門寺靈宝殿では、一月十九日の日朗菩薩第七百遠忌報恩法要初日より、二月二十四日までを会期(金・土・日・祝日開館)として、特別展「日朗菩薩」を開催し、本書にその展示目録を付した。